



四日市の工場夜景を海上から眺める
夜景クルーズも人気

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.569

四日市の工場夜景〈三重県四日市市〉

昭和30年代に稼働開始して以来、日本の経済成長を支えてきた石油コンビナートを有する四日市の工場地帯。力強いその姿は、夜になると一変、無数の光の中に浮かび上がり幻想的な世界を見せてくれます。大正橋エリアの堤防から対岸を望む景観は中でも人気です。

〈人の役割〉

先日読んだ本に「すべての人には寿命があり、遊んでいても、寝ていても、仕事をしていても、常に限られた寿命の一部を減らしながら生きている」そして「すべての人は役割を持って生まれ、誰かに喜ばれる人生を歩む」と書かれていました。とても奥が深い内容で今日までの自分と向き合う機会となりました。

人はそれぞれに歩む道が異なり、仕事や趣味も違いますが、この本に書かれているように「誰かに喜ばれること」や「周りの人のお役に立ちたい」と思う気持ちとは共通しているのではないのでしょうか。

人は生活を送る中で多くの人と関わりを持ち、日々を過ごしています。その時々で役割を全うしようと努力し、その努力が実った時に自分自身の喜びとなります。また、周りにいる家族や仲間も努力の姿を見ていたことで、自分事のように喜びます。役割を果たそうと懸命に取り組む様々な場面には、多くの「喜び」や「感動」があるのではないのでしょうか。

ダスキン創業者の鈴木清一が、ダスキンを起業する際に「喜びのタネをまこう!」をスローガンに掲げたのは、「仕事を通じて人生の役割を求めていこう」との願いからであったと思います。自分の「役割」をしっかりと見据え、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



山口県山口市

女性目線の古民家維新



日本一美しい橋と呼ばれる角島大橋のたもとに、田楽米を使ったスイーツを出すカフェを出店予定



「おんたちの古民家」の事務所も趣きのある庭と回り廊下が印象的な古民家

自分の全てで切り開く

卒業後、情報誌の記者として働いていた彼女は、結婚を機に退職。しかし、家事だけで終わる毎日に疑問を感じ、何かはじめたいと探すうちに見つけたのが古民家鑑定士でした。

「起業するぞー」。資格を取得した彼女は、山口県初となる古民家再生の一般社団法人を、全国にも類を見ない女性主体というスタイルで立ち上げます。その名も『おんたちの古民家』。前例のない団体であることは、彼女をより自由にさせました。

「できることからやれば良い」。彼女がまず最初にしたこと。それは記者経験を生かし、県内の素敵な古民家をめぐって記事にし、インターネットに上げること。するとそれが反響を呼び、取材先の人々はもろろん、古民家好きの人たちが集うようになり、古民家を生かした料理教室や音楽フェスなどのイベントを開催するまでに。やがて、山口市から「山口市定住サポーター」に任命され、希望者に古民家を紹介するうち、立ち上げから5年で12の古民家を再生させました。

「私の祖父が釣りの帰りに事故に遭い突然亡くなったのです。それ以来、人生一回きり、やりたいと思ったら挑戦しよう」と決めました。5年でここまで来られて、

みなく使って進む彼女に、改革者の魂を見た気がしました。



松浦奈津子さん

「幸せな風景」を紹介してくれたみなさん

「おんたちの古民家古民家大好き女子部」のメンバー

メンバーは20～30歳代の女性が中心。田植えイベントでは「モンベッコ」というおしゃれなもんべ姿で作業するのだそう。

<http://www.yamakomi.com/>

海外からのお客様に雪見障子の説明をする松浦さん



順風満帆のようにも見えますが、ギリギリで挑戦したことも多々あります。でも、前を向いて頑張っていると、なぜか助けてくれる人が現れるのです。

今は主にモデルケースで再生した古民家「田楽庵」のある徳佐の米「田楽米」と、それを使ったスイーツや農業イベントで地域を盛り上げること。そして、日本家屋の素晴らしさを世界へ発信するため、海外からのお客様を招く活動に注力しています。思ったこと、できること、知っていること。自分の全てを惜し

山口県山口市 幸せな食べ物 × 幸せな風景

米粉クレープの夏みかん添えの作り方

夏みかんは、江戸時代に南方から現在の山口県長門市付近に漂着した種を育てたのが起源だそう。夏みかんの酸味がさわやかなシロップと、モチモチの米粉クレープがよく合います。



材料 (2人分)

クレープ生地	
生米(米粉でもよい)	0.5合
水	60cc
バター	適量
夏みかんのシロップ煮	
夏みかん	4～6粒
水	540cc
砂糖	大さじ5
はちみつ	小さじ1
きなこ	適量
※お好みでアイスクリームを添えてもよい	

鍋に水540ccと砂糖大さじ3を入れてひと煮立ちさせ、皮をむいた夏みかんを入れる。3分ほど煮詰め、夏みかんを取り出しバットなどにあげ、乾燥しないよう、煮汁を適量かけ、常温で置いておく。

残った煮汁にさらに砂糖大さじ2とはちみつ小さじ1を加え、弱火でとろみがつくまで煮詰め、シロップをつくる。

生米0.5合は2時間ほど水につけておき、水気を切ってフードプロセッサーなどで細かく砕く(市販の米粉ほど細かくなってもよい)。砕いた米に水60ccを入れ、ダマがでないよう、よく混ぜる。



4



5

「幸せな食べ物」の作り方を教えてくれた人



おんたちの古民家
原亜紀夫さん

古民家を飲食店に再生させるプロ。同団体が運営するカフェのシェフも兼任。5月には角島大橋のたもとに「cafe the 晴レル家」をオープン予定

気分転換とやる気

日々の忙しさに流されて、「あなた自身の時間」の大切さを忘れていませんか？
なにげない日常を丁寧暮らしすることこそ、人生を有意義に過ごすコツ。シンプルでありながら豊かな暮らしふりで人気の門倉多仁亜さんと一緒に『丁寧暮らし』について考えてみませんか？

新しい環境で

この春、スタートを切ったみなさん、新しい環境には慣れましたか？落ち着くまでには試行錯誤したり、かなりのエネルギーを使いましょうね。

私は小さな頃から、日本、ドイツ、アメリカを行ったり来たり。言葉も価値観も違う環境に慣れるのに苦労しました。相手に合わせようと頑張るのですが、疲れて面倒になり、殻にこもったこともありました。

でも、振り返ると、どの国の人であつても友達にはなれるものです。もちろん、何でも分かり合える親友になれるわけではありませんが、「笑顔」と「あ

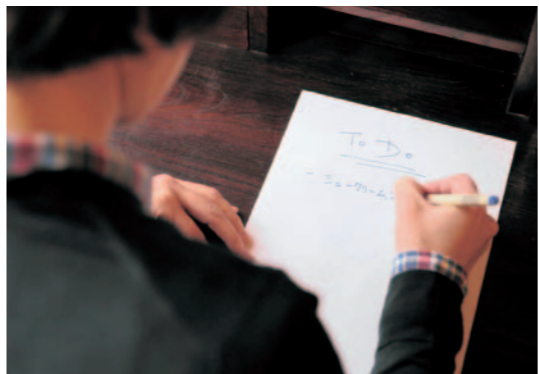
いさつ」で自分をオープンにしていれば、自然な関係はつくれるものなのだと思います。

積み上った仕事を一旦、降ろす方法

環境に慣れないといけない一方で、新しい仕事や勉強、やらなければならぬことも山積み。今回は、そんな時の「気分転換」と「やる気」がテーマです。とは言うものの、その方法は人それぞれ。もし、普遍的なことが言えるのであれば、メリハリをつけるということでしょうか？オンとオフをしっかりと分けて引きずらない。ですが、仕事が溜まっていると思うと、休んでいても落ち着かないという人も多いのでは。



朝からゆっくりと新聞の読める日は、それだけで1日充実した気分になれるのだそう



やることを書き出すことで、頭の中も整理される



家で仕事をすると他にやらなければならないことに気がとられるので、集中したい時は、図書館や喫茶店で

私もやるのがたくさんあると、そのことに「どうしよう…」と焦ってしまつて、結局何一つ前へ進まないことがあります。こういう時、しているのがやることを書き出すこと。

それも、後に残るノートなどではなく、終われば捨てられる広告の裏などに。やらなければならぬことをメモにすることで、今忘れても、これを見れば思い出せるという安心感が沸きます。頭の中に散乱していた荷物を整理し、メモの上に一日降ろして軽くなる。

そんな感じでしょうか。後は、メモに沿つて、順に片付ければ良いのです。終わればメモを捨ててスッキリする。それもまた、一つの達成感です。

達成感や喜びを想像する

会社勤めをしていた頃は、締切があつて、上司や仲間と背中を押されながらやり遂げられることも多かったのですが、今は、フリー。主婦の方もそうだと思いますが、自分で締切やクオリティーを決めて、自分で叱咤激励しながら

一人ですることが多いです。キッチンで新しいレシピを考へたり、商品にするジャムを煮たり、原稿を書いたり。そうしているうちに、窮屈な上に社会から取り残されている不安にストレスを感じ、やる気が失せることがあります。

リフレッシュには英字新聞

そんな時、私をリフレッシュさせてくれるのが、新聞。特に英字新聞を読むと、世界つながれる気がします。紙面が世界へつながる窓となつて、その向こうの広い世界に開放感を味わうことができる。おおげさかもしれませんが、私にとって新聞はそんな存在です。

後回しの口実から離れてみる

学生の頃、勉強しなければと思うと、机を片付けたくなつたことはありませんか？家で仕事をしても、妙に掃除したくなつたり…。それは、やらなければならぬことを後回しにする口実だと、小さな頃から教えられてきました。なので、原稿を書く時などは、喫茶店や図書館へ出向きます。すると、口実となる家事から切り離されるので、後回しは回避される。これも一つのやる気の出し方でしょうか。



できあがりの達成感を想像しながらジャムを煮る



自分で作ったジャムが、キレイに包装されお店に並ぶ姿を見ると、次へのやる気がわいてくる

Profile

門倉 多仁亜さん (かどくら たにあ)

1966年生まれ。料理研究家。日本人の父とドイツ人の母を持つ。日本、ドイツ、アメリカなど転々と移り住み、帰国後はじめた料理教室が人気に。現在は東京を基盤に月に一度、自宅のある鹿児島へ帰る暮らしを続けている。本年3月には新刊「365日の気づきノート」(SBクリエイティブ)を発売。



うれしい母の日

埼玉県熊谷市 小林千恵さん

数年前から夫婦間でのプレゼントのやり取りは、お金がかかるということで取りやめました。ところが、3人の子どものためからは、昨年の子どもの日、長女夫婦からはカーネーションを、大阪に住む長男からは「大阪を案内するよ」と大阪の街歩き本。次男からは私の好きなおちよこ付きミニ大吟醸セット。本当にうれしい母の日のプレゼントでした。

朝4時起きでパートを頑張ってきました。ここ数年、体調が悪く、早退することもあり、すっかり自信をなくしていました。

60歳を目標にもうちょっと頑張ってみようと思っ今日この頃。やっぱり物には弱いんだなあ…。

＊お子さんの気持ちがうれしいですね。



91歳の母

愛媛県松山市 佐田満子さん

私の母は91歳。先日、娘(つまり孫)の結婚式に参列してくれました。場所は娘の憧れていた海外結婚式のハワイ。長時間の飛行機にもめげず、元気で機内食もしっかり食べていました。

入国審査には時間がかかりましたが、係の方が母を見つめ、別の窓口で入国手続きをしていただき、待つことはありませんでした。歩くことが多い場所は車いすで移動したのですが、行く先々で温かい対応をしていただき、いい所だと言うことしきり。

最初は男性も女性も大きくてビックリしていた母も、自然でスマートな弱者に対する優しい扱いを体験して、すっかりハワイ好きになりました。

＊ハワイでの結婚式。いい思い出になりましたね。



おばちゃん、ありがとう

福岡県朝倉市 畑井美智子さん

わが家は洗濯を夜にするのが定番です。いつものように洗濯物を干していた時のことです。蛍が2匹、乱舞しているのです。

まだ5月だというのに…。近づいても逃げようともしない蛍。

私は思いました。明後日は先月亡くなった大好きな叔母の四十九日の法要。いよいよ旅立つてしまします。最後に会いに来てくれたんだと嬉しくなりました。

手に取って包みたくなりました。

おばちゃん、ありがとう。

そして、本当にさようならね。

＊とってもロマンティックなお別れです。

燈々無尽

プラスの人生

他の人の失敗を、せめないで、温かくかばってやることも大事です。

しかし、それ以上に失敗をした本人が、そのことを

大きな授業料を払ったとして、今後の人生に大きな収穫を得るか、それとも、失敗をアタリマエだ、とすくしてしまいか、

ハッキリ教えることは、より以上に有益です。

私たちの生活になくはならぬものが助け合いと誠実！

感謝され、感謝の出来る大きな人間になって下さい。

鈴木清一



不思議な夢

山口県周南市 田坂光枝さん

母が亡くなりました。大病を抱えていたので、いつかは別れが来ると覚悟はしていましたが、亡くなってから日が経つにつれて、いろいろな思い出がよみがえり、寂しさを感じています。

ある晩、母の夢を見ました。いつものようにあれこれ話をしていた、途中からあれっ？お母さん亡くなったんだよね？と思ったら、「最後まで全然苦しくなかったよ」と母が言ったところで目が覚めました。

母は、きつと私を安心させようと夢に現れたのでしょね。不思議な夢でした。

＊お母様の優しさがわかるステキなお話です。



さわやかな新緑の風

長野県小諸市 山浦繁子さん

夫婦二人暮らしの私たちは、久々に高校野球の地区大会の球場へ足を運びました。かつて次男が主将として、捕手として懸命に白球を追いかけていた場所です。

礼儀正しい会場係の生徒たち、選手、応援団、保護者たちも一体となったすばらしい試合に魅了され、私も必死で母校の応援をしました。

次男は現在、京都の中学で教職に就き、野球部の監督として昼夜頑張っています。京都市の大会があると自分のチームの勝敗をメールで連絡してくれます。ひとつ夢をかなえ、まだこれからと頑張っている息子を応援し続ける私たちです。久々の球場にはさわやかな風が吹いていました。

＊頑張る息子さんをずっと応援してあげてください。



チケット

熊本県玉名市 立石史子さん

夫が1人で行くことになっていたコンサート。急遽、私も行くことになりましたが、チケットがないので開演4時間前に当日券を求めに役所へ行きました。尋ねるとチケットは売売とのこと。係の方が取扱店に電話をしてくれましたが、やはり残っていませんでした。

仕方がないので、私は1人で車の中で待っていると夫に話しました。すると、役所の方が「私は都合で行けないから、チケットを差し上げます」と、譲ってくださいました。代金を払い、お礼を言って役所を出ました。本当にラッキーでした。コンサートはすばらしかったし、心地良い思い出になったのは言うまでもありません。

＊きつと日頃のおこないが良い証拠ですね。

愛の輪からのレター

みんなと一緒に、私たちができること。

4



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

「夢」を咲かせるお手伝い。

設立当初から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」は、地域社会に貢献したいと願う障がいのある若者に、海外で学ぶ機会を提供しています。34年間で484名が研修を修了し、彼らは帰国後、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パリンピック選手などさまざまな分野で活躍。これからも、障がいのある若者たちの「夢」を咲かせるお手伝いを続けていきます。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎06-6821-5270 http://www.ainowa.jp/

あなたのお便りや写真を
お寄せください。

みなさまからお寄せいただいた
お話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いて
もらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた
原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

ほら見て
歩けるように
なったよ!



京都府福知山市
中村月子さん



庭で咲いた
バラのお風呂

新潟市南区
斎藤直子さん

みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし。
あなたのお気に入りの1枚を送ってください。

最後まで
共に
闘おう!



佐賀県白石町
森道子さん

ねえ、
おとぼ!



千葉市美浜区
阿部恵子さん

ねえ、
おとぼ!



茨城県守谷市
北原綺音さん

No.419からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

合計**1,000**名様に
豪華賞品が当たる!

インターネット会員サイトDDuetプレミアム会員限定
サンクスキャンペーン2016

応募期間 2016年4月1日(金)～6月30日(木)

【応募条件】
応募期間中に別途当社
が指定する商品・サービス
を1,000円(税込)以上
ご利用いただいたDDuet
プレミアム会員に限ります。

キャンペーンについて
まずはアクセス!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター
0120-100100 www.duskin.co.jp